



真城っ子

やさしいっばい

かしこいっばい

たくましいっばい



■真城小学校ホームページ■ 日々、真城小学校の様子や子どもたちの活動を投稿中。 毎日チェック♥

実りの秋へ向かって、Let's GO ー始業式講話ー

2学期に向けて、真城小のみんなで取組んでいきたいことをお話します。

それは、真城小みんなのやる気があふれる秋にすることです。2学期には、いろいろな行事が計画されています。行事だけでなく、毎日のお勉強でも、できるようになる、わかるようになることの連続です。

そのような秋を、みなさんがやる気いっぱい活動していくための方法を、今からお話します。それは、「鍛える」ということです。人間は、鍛えたところが強くなります。例えば、大谷選手も一生懸命に練習して、鍛え上げて、名プレイヤーになったのです。私たちも体の3つの部分、体、心、頭のそれぞれをしっかりと鍛えて、強くなりましょう。できることをたくさん増やしていきましょう。



そのためには、体、心、頭から、しっかり汗をかかないといけません。

まず、体の汗とは、自分の目標に向かって体を鍛え、動かしている時に出てくる汗、つまりみんなが体育の時間等にかいている汗のことです。体を鍛えれば、鍛える程、体はより逞しく、より強く成長していきます。更に、体から出る汗には、人のためになることを、みんなと協力して活動する時に出る汗も含まれています。委員会活動、係活動、掃除など、みんなと協力してしっかり汗をかいてください。

2つ目は、心から出る汗です。心の汗は、簡単に言うと「思いやり・親切」の汗のことです。

「どうしたんだろうとお友達のことを心配し、自分にできることはないかなと思いを巡らせるときに出る汗のことで、真城小のみんなの得意としている汗です。これまで以上に、お友達のことを考え、思いやり、力を合わせて、毎日の生活を明るく豊かにしていきましょう。決して、自分勝手に、わがままな考え、行動はいけません。そんな友達に迷惑をかける汗なんて、いりません。

最後3つ目は、頭から出る汗です。皆さんが、お勉強をしているときに、「うーん、難しいなあ。どうしたらいいかな? こう考えたらどうかなあ」と、一生懸命に考えて、自分の考えをまとめている時に頭から汗がにじみ出てきます。このような汗をたくさんたくさんかくことによって、考える力が付きます、粘り強く諦めない力が育ちます、沢山のことが出来る、分かるようになり、お勉強が楽しくなれます。



体、心、頭、3つの汗のかき方を紹介しました。3つに共通して言えることは、先生から言われてするのではなく、皆さん自分自身で、気づいて、考えて、行動することが大切だということです。

だまって待っていても、体のどこからも汗は出てきません。動かさないと、使わないと、鍛えないと、汗は出てきません。汗は、かけばかくほど、のどが渇いて水を飲みたくなります。こののどの渇きこそが、やる気が大きくなってきており、みなさんが素敵な成長をしている証拠なのです。

『真城小みんなのやる気があふれる秋にしていましょう』

1 「あいさつ」は「愛のメッセージ」 前編前号

2 自己肯定感と意欲を高める「自信」エネルギー 前編前号

3 怒らないで「伝える」言葉かけ 前編前号

4 心からの声を受け止める聴き方

○ 子どもは、親に話を聞いてもらえると安心し、ますます話がしたくなります。「あなたの話をいっぱい聞いていますよ」というサインを使ってみましょう。

① **あいづち**：「そうなんだあ〜」「それはすごいね」、気持ちのない「ふ〜ん」はダメ

② **うなずき**：首をたてに動かすだけ

③ **繰り返しや要約**：話に途中で入れると、子は気持ちよく話を続けることができる。



5 「できる」「やりたい」と思わせる言葉かけ

○ 未来を明るく想像しながら話をすると楽しくなってきますし、目標が達成できるイメージが持てると、ワクワクしてきます。子どもに夢や目標を聴く時には、**それに近づくためのプロセスを明らかにするような質問**をたくさんしてみましょう。

具体的な行動やプロセスが見えてこない時には、「**選択肢**」を提示したり、「**提案**」や「**リクエスト**」を親からしたりすることも考えてみましょう。

6 子どもを信じて任せる

○ 子のことを思うばかりに、親は何かと手を貸したくなりますが、それでは、子の成長の機会を奪うことにつながりません。やがて社会に出て自分でしなければならないことは、少しずつでもさせていくことが本当の親の愛と言えるのではないのでしょうか。

例)「**ピグマリオン効果**」：人は期待されたどおりの成果を出す傾向がある。

・エジソンがいい例です。彼の才能や可能性を信じて、見守り続けた母。親が手出しする「ヘルプ」から、信じて行動させて応援する「**サポート**」へ

生活環境・学習環境・言語環境を整えよう

行動主義心理学者のワトソンは、人の発達には各自が置かれている環境によってよって異なるとする環境説（学習説・経験説）を主張しました。



「わたしに 1 ダースの健康で肢体の完全なる乳児とわたしが望む育児環境を与えてくれさえすれば、医師・法律家・芸術家・・・あなたの望みどおりの職業につけるように育ててみせます。」という言葉は有名です。つまり、もって生まれた遺伝的な要因で人の発達は決まるのではなく、環境こそが発達を決める重要な要因であるというわけです。

【2 学期に力を入れて指導していくこと・言葉の環境を豊かに！】

○ 教科の学習中に、ねらいに即した「書く活動」を設定することで、児童一人一人が思考・判断し、表現する機会を保障し、確かな学力の向上へとつなげていく。

○ 言語環境を整え、語彙を豊かにする指導の改善を図れば、「書く力、考える力」が向上するであろう。

・望ましい言語を使ったコミュニケーションの定着を目指す。

呼び捨て→くん、さん付け、汚い・荒い・高圧的な言葉の排除

・気持ちや状況を表す言葉の幅（量）を広げ、コミュニケーションの質を高める。

きもい→はらだたい、むっとする、目を疑う、なさけない etc 教師の言葉フィードバック

・読書のねらいの転換

冊数（量）→豊かな語彙・表現を獲得する読書活動の幅を広げ、読書の質の向上を図る。

・学年独自の言語増強作戦（量と質）

視写、暗唱、辞書活動、ミニ日記、ミニスピーチ、振り返り・反省、講話聞き取り